

学校目標・経営方針	たゆみなく自己を磨き、すすんで人のために尽くす心身ともに健全な人間の育成をめざすー自己肯定感・自己有用感の育成ー
本年度の重点目標	「ひばりのドリカムプラン」の充実・発展
	1 「総合的な学習の時間」を通じて社会人としての資質を育てる
	2 「創作授業」を通じて、協調性・積極性・豊かな感性を育てる
	3 「生活体験文指導」により、自己を客観的に見つめる力を育てる
	4 「静聴の時間」により、傾聴力を育てる
5 創立10周年を意識した活動	

山梨県立ひばりが丘高等学校長 安藤 昇

評価	4 良くできている。
	3 できている。
	2 あまりできていない。
	1 できていない。

自 己 評 価			
本年度の重点目標		年度末評価(3月12日現在)	
番号	評価項目	具体的方策	方策の評価指標
1	「総合的な学習の時間」 ①自己肯定感・自己有用感の育成②他者や社会と関わって生きていく人間の育成③入学から卒業までの一貫したキャリア教育を目標に計画立案の充実を図る(総合的な学習推進委員会)生徒の実態に即した運用をする。(各年次)	総合的な学習推進委員会の定期的開催(進路・年次)	年4回の実施
		年次主任を中心とした体験的な要素を取り入れた授業(年次)	重点活動の決定と実施・評価及び報告
		評価規準に即した授業展開の工夫(担任)	生徒の自己評価の実施
2	「創作授業」 目的に合致し、汎用性のある計画立案の充実を図る(生徒会指導部)とともに、外部指導者との連携を積極的に進め、効果的に活動を展開する(全職員)	創作授業推進委員会およびそれに伴う年次分掌会議の定期的開催(生徒会部・年次)	年5回の実施
		外部講師との積極的な連携と協働(全職員)	各担当ごとの事前打ち合わせの実施
		次年度の計画作成に向けた各授業の内容・全体的構成の検討(生徒会部・年次)	生徒の自己評価の実施と検討
3	「生活体験文指導」 1年次生に対する技術的指導の充実(国語科)と個々の生徒の実態に即した指導により、全員に自己を見つめ直す機会を持たせる(全職員)。	職員の文章作成指導力の向上(国語科)	全職員への研修の実施
		生徒一人ひとりの取り組み意欲の向上(年次)	クラス内発表者90%以上の達成
		生活体験文を完成させることにより達成感を持たせる。(年次)	提出率90%以上の達成
4	「静聴の時間」 年間を通じた計画を設定し各年次との連携を充実させるとともに、興味を喚起する講演会を企画する(教養研修部)	生徒の実情に即した「静聴の時間」の実施(教養研修)	具体的年間計画の作成
		「静聴の時間」講演会の講師選定上の工夫(教養研修)	資料の収集と検討を前期に開始する
		生徒の取り組み実態の検証(教養研修及び年次)	「静聴の時間」感想文の資料化
5	創立10周年を意識した全校をあげての活動を行う	10周年を意識し、各自が一人一実践の計画を立て実践する	各自の実施結果割合にて評価

学校関係者評価	
実施日(平成26年2月13日)	
評価	
3	・総合的な学習の時間などを通して、自分が何が得意で何が不得意かが確認できる。自己を知ることにより将来を見据えることができる。社会に出るための準備として大変有意義な時間だと感じた。 ・人間性豊かな社会人を育てるために、長期的な展望を持ちながら段階的な指導を行っており、その重要性を再認識した。 ・学校で普通にすべきことをしっかりと経験し、社会に出て行くことが大事である。地域に住むものとして、生徒達を見守る役目をしっかりと行っていきたい。
	・生徒達の真剣に取り組む姿勢が大変印象的であった。 ・作った作品を地域の文化祭等に展示するなど、これを地域との交流の機会とすることにより、学校への理解がより深められるのではないかと感じた。 ・目標が明確であり、今後も継続して欲しい。 ・外部講師の方々とのふれあいにより、人間としての幅が広がったのではないかと感じた。 ・1年次から4年次にかけて個人的なものから集団で行うもの。また、高学年になるにつれ「他者のためや社会貢献を意識した内容」となっており、大変共感も受ける。 ・3年次生は全校生徒に向け自作のうどんをふるまっていた。それを頂いたが、おいしい思いが伝わるうどんであった。大変評価出来る行事であると感じた。
	・人前で自分のことを話すのは、定時制の生徒達にとって難しい面もあると思うが、自分の考えを述べたり仲間の話を聞くことは、大変有意義だと感じた。 ・他の生徒の考えや悩みを聞くことは、人間関係形成や個々の自立に大変有意義だと感じた。 ・人前で話をする事ができただけでもすごいと感じた。
3	・放送で流す朗読は、教師だけでなく生徒のものもあった。BGMもあり大変効果的だと感じた。 ・聞いた朗読に対し、自分の意見や感想を書かせることは重要である。また、それに対し、教師がメッセージを返すことは生徒の考えを深めることにつながり、今後もこの双方でのやりとりを継続して欲しい。
	・素晴らしい幕絵が完成した。もっと多くの生徒の参加があればよりよかった。 ・本校創立期から生徒の様子を見てきたが、全体的に生徒の顔が穏やかになり、登下校時前を向いて歩く姿が多くなったと感じている。

留意点 (1)重点目標と評価項目については、各学校の現状と課題に基づき、実情に合わせて重点化し、設定する。
(2)学校関係者評価については、年度当初に今年度の重点目標の現状と具体的対策を説明し、評価に必要な情報提供を計画的に行う。学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価委員会等を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。